



今回は 探究活動を生かした進路実現 の報告です。

◇ 土田真菜さん（岐阜大学応用生物科学部応用生命科学課程）の体験記！

おもな活動記録

- ・2018年度 全国高校生歴史フォーラム 優秀賞・学長賞
- ・2019年度 全国高校生歴史フォーラム 佳作
- ・2019年度 日本考古学協会総会高校生ポスターセッション 最優秀賞

今年の3月に関高校を卒業する土田真菜です。先日、私は推薦入試Ⅱで岐阜大学応用生物科学部応用生命科学課程に合格しました。今回は、私の進路決定に影響を与えたSGH活動や部活動について書きたいと思います。高校生活や進路実現の参考になればと思います。

私は地域研究部に所属していたこともあり、日本考古学協会ポスターセッションや研究発表、様々な講演会へ参加する機会がありました。また全員参加のSGH課題研究活動では高山でフィールドワークを行ったり、専門家の方から話を聞いたりしました。このような活動を通して私は次の2つのことを学びました。

1つ目は、主体的に行動することです。推薦入試では面接があったのですが、緊張していた中でも部活動やSGH活動については言葉に詰まることなく話すことができました。もちろん事前に練習していたこともありますが、私は主体的に行った活動だったからではないかと思います。特に部活動のポスターセッションは、会場内の人に自分から話しかけて、研究について話し合うという初めての体験でした。1回目の参加のときにはほとんど話しかけられませんでした。2回目のときは積極的に話しかけ、相手から研究のアドバイスをもらうことができました。勉強でも部活動でも自分から進んで行わなければ、なかなか力は身につけません。まずは主体的に行動する姿勢を身につける場として、SGH活動などに積極的に挑戦していくことが大切だと思います。

2つ目は、経験は人生の糧となるということです。関高校に入学し、新しいことにも挑戦してみようと思って入った部活動やSGH活動は大変なことも多かったです。新たな人との出会いや体験など、たくさんの貴重な経験を得ることができました。他の人より秀でた特技をもつことは難しいことだと思います。しかし、色々なことに挑戦し、たくさんの経験を積んでいけば、それは自分の強みになります。

3年間という短い高校生活の中で、自分でこれからの進路を決めなければいけません。SGH活動を通して社会を知り、興味のあることを見つけることもできると思います。まだ、明確に進路が決まっていない人はぜひ講演会やセミナーに参加してみてください。目標が定まれば、大変な受験勉強も乗り越えられるはずです。

最後に、3年間の高校生活は本当にあっという間です。だからこそ、まずは目の前のことに全力で取り組んでください。皆さんの高校生活が有意義なものになることを願っています。

